

2024年5月11日

「ビキニ核被災70年」の3・1を牽引した高知の闘い（下） — 「3・1 ビキニデー集会」の主要テーマに位置付け—

長谷川千秋（非核の政府を求める京都の会常任世話人）

毎年、原水爆禁止世界大会実行委員会と3・1 ビキニデー静岡県実行委員会編・発行の「3・1 ビキニデー集会の記録」を読ませてもらっていますが、手元に届いた今年の「**ビキニ水爆被災70年** 2024年3・1 ビキニデー集会の記録」は、ずっしりと重かった。ページ数は昨年の「集会の記録」の1・5倍ありました。

ビキニ環礁で広島型原爆の1000倍の威力を持つとされた水爆実験に巻き込まれた第五福竜丸の被災者のひとり無線長の久保山愛吉さんは「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と言い残して亡くなりました。3・1 ビキニ集会は、久保山さんの遺志を引き継いで全国の原水爆禁止運動が毎年続けてきたものです。例えば下記日本原水協HP参照。

https://www.antiatom.org/bikini_day/

◆マーシャルの被災者をネズミと比較

今年の「集会の記録」を開くと、最初に2月28日に催された「ビキニ水爆被災70年シンポジウム」の内容がびっしり載っている。第1報告が奈良大学教授の高橋博子さんの「ビキニ水爆実験被災の現代的意味と課題 隠され続けるグローバルヒパクシャ・隠され続ける核被災文書」でした。ビキニ高知の闘いを全面支援している高橋さんは、主として米国立公文書館にある機密公文書、あるいは機密解除させた公文書をコツコツと収集、分析することで、今回の演題も示すように、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニの被災者がいかに米核兵器開発・核軍拡の犠牲になってきたかを論証し続けている研究者。「ビキニ核被災70年」を見据えて、昨年から今年にかけても全国で精力的に講演活動してきました。

今回の報告は会場に200人以上参加、私も150以上のアクセス者の1人としてオンライン視聴しましたが、とても驚いたのは、読売新聞が第五福竜丸の被災をスクープ、世界に発信したあと、米原子力委員会から日本に派遣されたこともあるメリル・アイゼンバット博士が、マーシャル諸島の被災者を調査するにあたっての発言内容でした。「その島で生活していた人たちは現在では安全に生活しているが、世界で最も汚染された場所である。汚染された環境で生活する際に人間が取り込む量を測定することは非常に興味深い。このようなデータはこれまでなかった。これらの人びとが欧米人のような文明的な生活をしていないことは事実だが、それでも、これらの人びとがネズミよりも私たちに似ていることもまた事実である。というわけで、この冬はこの調査をおこなう予定である」（「集会の記録」から引用）。高橋さんは約30枚のパワーポイントを展開しましたので、見落とししてしまいましたが、「集会の記録」で確かめることができました。

「…it is nevertheless also true that these people are more like us than the mice. …」

高橋さんは日本のビキニ核実験被災船の補償問題でも、わずか200万ドルの見舞金で日米政府が政治決着した背後で、当時+の重光葵外相（東條内閣の外相、極東軍事裁判でA級戦犯、

戦後政界復帰)が「大規模な戦犯の解放と仮釈放」を取引材料の一つに米側と交渉していた事実を情報公開請求で開示させた事実を述べ、マーシャルでも、日本でも、被ばく者を放置してきた政府の責任を、核兵器禁止条約をテコに追い詰めていこうと結びました。

第2報告も高知からでした。太平洋核被災支援センター副代表の橋元陽一さんが「ビキニ被災の全容解明と被害者への補償、救済を求めるたたかい」と題して、1985年、幡多高校生ゼミナールの高知での被災者発掘から、2016年、高知地裁へ被災船21隻の元乗組員、遺族らが起こした裁判闘争のその後の展開と現状を詳しく述べました。

第3報告はマーシャル諸島共和国からの代表の報告、締めくくりは野口邦和・原水爆禁止世界大会実行委員会運営委員会共同代表の「ビキニ事件と原水爆禁止運動」でした。

また静岡県焼津市、宮城県、神奈川県三浦市、千葉県、和歌山県での一部被災船のその後に関する調査や市民へのアピール行動の報告もありました。全国で被災船の掘り起こしがどこまで進むか、注目です。

◆「必ず救済の道を切り開く」と支援を訴え

翌3月1日はビキニデー。「被災70年2024年3・1ビキニデー集会」(原水爆禁止世界大会実行委員会、3・1ビキニデー静岡県実行委員会共催)が静岡市民文化会館大ホールとオンラインのハイブリッド形式で開催され、合計1500人が参加しました。

この日も「日米両政府の責任を問う—52人の被災船員・遺族の証言のなかから」と題して、太平洋核被災支援センター副代表の岡村啓佐さんが自著写真集「NO NUKES」(2018年刊)の元漁船員たちの姿をパワーポイントで写しだしビキニ高知の闘いを報告。「写真集に登場いただいた元漁船員28人のうち残念ながら15人もの方々が亡くなりました」と。締めくくり「ビキニ水爆被災事件は、第五福竜丸を社会の矢面に出すことで、延べ1000隻に及ぶマグロ漁船や貨物船の被災を意図的に隠蔽した、表裏一体の、戦後最大の未解決事件です。高知の2つの裁判は、第五福竜丸だけでなく、隠された全国のマグロ漁船員、貨物船員の人権回復と、救済の道を求める裁判です。もう1つの救済の道は、日本政府に核兵器禁止条約の批准を求め、第6条で救済の道を開くこと。どちらの山も高い山ですが、国際社会は私たちに正義があることを教えています。必ず救済の道を切り開きます」と力を込めて述べ、支援を訴えました。

◆下本節子原告団長のメッセージ原稿

その後、会場スクリーンが場面転換、マーシャル諸島の首都マジュロの光景が映し出されました。土田弥生・日本原水協事務局次長の現地報告で、ビキニ高知の訴訟で原告団長を務める下本節子さんの姿もアップされました。下本さんと同行した濱田郁夫・太平洋核被災支援センター共同代表は後日、朝日新聞のインタビューで、マーシャル核被害者追悼式典に参加し、ヒルダ・ハイネ大統領主催の昼食会で下本さんがスピーチできたこと、延べ1000隻の船が周辺海域で被ばくしたことを述べると、現地の政府高官や被ばく者も、そんなに被害があったのかと驚いた様子だったと話していました(朝日新聞DIGITAL3月31日)。

下本原告団長は、マーシャルでのスピーチの任務を背負ってから緊張し、何度も原稿を練り直していたそうです。「最終案」を入手したので、紹介しておきます。



日本から来ました下本節子です。

私の父親は70年前、高知県のマグロ漁船第七大丸で働いていました。

当時、太平洋ではたくさんの日本の漁船が魚を追って漁をしていました。

1954年の核実験では第五福竜丸以外に約1000隻の船が被災していたのです。

でも、漁船員たちは黙っていました。被ばくしていることを知らされなかったり知っていても口止めされたり、漁業への不利益や、仕事や子どもへの差別を心配して隠していました。

私の父も黙っていましたが、1960年36才の時、病気で船の仕事をやめました。

そして60才の時、胃癌で胃の4分の3を摘出手術しました。

亡くなったのは2002年、78才、胆管癌でした。

核実験による漁船員の被ばくがあきらかになったのは、1985年、

高校生たちが高知県の漁船を訪ねて調査を続け、たくさんの漁船員が被曝していたことがあきらかになりました。

当時の高知の漁船員たちは、漁をしながら小さな船の中で2カ月ほど暮らします。

放射能降下物で汚染された雨で体を洗い、汚染された海の水で米を洗い、

汚染された魚や魚の内臓を食べるといふ船の暮らしで放射性物質が体の中に入り内部被ばくしました。

内部被ばくは、人によって発症する時期や症状に個人差があります。

何年かたって白血病や癌になってもその原因を証明することは困難です。

核開発・保有・使用・威嚇・援助をすべて禁止する核禁条約にすべての国が参加して欲しいです。

それに、核禁条約は、被害者支援と環境の回復を義務づけた初めての条約です。

すべての国が核兵器禁止条約に参加するよう連帯して頑張りましょう。



◆第五福竜丸展示館の市田真理さんに感謝

最後に、ビキニ事件を知るための原点、木造の第五福竜丸が保存、展示されている東京都立第五福竜丸展示館学芸員、公益財団法人第五福竜丸平和協会事務局長の市田真理さんに感謝の気持ちを伝えたい。

「ビキニ70年」を前に、市田さんは昨年から今年にかけて全国を駆け巡り、ビキニ事件とは何だったのかを講演会などで発信してきました。第五福竜丸の乗組員の1人、大石又七さん

(2021年、87歳で死去)は肝臓がんなど様々な病気と闘いながら、700回以上の講演を重ねました。市田さんは晩年の大石さんの講演活動に付き添っていました。

昨年暮れ、広島市民団体が開いた市田さんの講演会では、「市田さんの学芸員としての専門性に加え、大石又七さんとの長い付き合いの中から育てられた強い思いを受け取りました」など沢山の感想がでました。



(2月26日、ポリタステレビの画面から)

ビキニ核被災 70 年の 3・1 直前の 2 月 26 日、市田さんは「ポリタスTV」というインターネットテレビから派遣されたフリーランス記者・宮崎園子さんと大きな木造船内を案内しながらトーク。密度の高いデータ展示内容も映し出されました。最後に一言、とマイクを向けられ、「大石さんは語り部といわれるのをいやがっていましたが…でも、声をかけていただければどこでもまいます」と笑顔できっぱり語りました。ご苦労様です。

★全国の図書館に置きたい本★

第五福竜丸は航海中

ビキニ水爆被災事件と被ばく漁船60年の記録



米国によるビキニ水爆実験被災から 70 年の今年、まず東京都立第五福竜丸展示館に足を運び、数奇の運命をたどって生き残った木造漁船、本物の第五福竜丸に会おう。そのあとで、ビキニ核被災とは何だったのか、この本で事件の全体像に触れ、核なき世界を求める人びとの思いを乗せて航海を続ける第五福竜丸を心に刻みたい。

「第五福竜丸は航海中—ビキニ水爆被災事件と被ばく漁船 60 年の記録」(2014 年 3 月 1 日、企画・編集・発行 公益財団法人第五福竜丸平和協会) 装画 黒田征太郎 216 頁、2000 円

(元朝日新聞大阪本社編集局長)